

# 2012年度 情報モラル調査結果(過年度比較)

2013年3月25日

岐阜県教育委員会

## 【 実施概要 】

＜調査対象＞ 岐阜県内公立の小中高等学校及び特別支援学校高等部

小学校 5年・6年 の児童  
 中学校 1年・2年・3年 の生徒  
 高等学校 1年・2年・3年 の生徒  
 特別支援学校 高等部 1年・2年・3年 の生徒

＜調査方法＞ 各学校で、校舎別・課程別・学年別に1クラスを抽出して、無記名アンケートにより調査

＜実施期間＞ 2012年 11月～12月

＜調査数＞

※ 「高」は特別支援学校高等部を含む

(2012年度)

学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小	中	高・特	合計
学校数	373	372	186	186	185	82	82	82	373	186	82	1,548
クラス数	373	372	186	186	185	94	94	94	745	557	282	1,584
<b>人数</b>	<b>9,506</b>	<b>9,472</b>	<b>4,979</b>	<b>5,506</b>	<b>5,477</b>	<b>2,637</b>	<b>2,631</b>	<b>2,604</b>	<b>18,978</b>	<b>15,962</b>	<b>7,872</b>	<b>42,812</b>
男子	4,850	4,820	2,533	2,790	2,818	1,463	1,362	1,359	9,670	8,141	4,184	21,995
女子	4,656	4,652	2,446	2,716	2,659	1,174	1,269	1,245	9,308	7,821	3,688	20,817
男女比(%)	51 : 49	51 : 49	51 : 49	51 : 49	51 : 49	55 : 45	52 : 48	52 : 48	51 : 49	51 : 49	53 : 47	51 : 49

(2011年度)

学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小	中	高・特	合計
<b>人数</b>	<b>9,451</b>	<b>9,655</b>	<b>5,038</b>	<b>5,549</b>	<b>5,469</b>	<b>2,700</b>	<b>2,621</b>	<b>2,560</b>	<b>19,106</b>	<b>16,056</b>	<b>7,881</b>	<b>43,043</b>
男女比(%)	51 : 49	51 : 49	51 : 49	52 : 48	51 : 49	55 : 45	52 : 48	54 : 46	51 : 49	51 : 49	54 : 46	52 : 48

## 【 調査結果の概要 】

### ◆【携帯電話・スマートフォンやインターネット使用について】

- ・およそ80%の家庭に、児童生徒がインターネットに接続できるPCがある。
- ・小・中学生の携帯電話所持率はこれまで年々減少傾向にあったが、増加傾向に転じた。特に小学生が顕著である。
- ・高校生のフィルタリング率は大変向上している。一方、小・中学生のフィルタリング率は減少に転じた。また、性被害等の危険性の高い女子高校生のフィルタリング率が低いことが課題である。
- ・「掲示板」への書き込みは減少している。一方、小・中学生を中心にオンラインゲームの使用率が増加している。また、女子高校生の過半数は、自分のホームページ(ブログやプロフを含む)を持っている。
- ・携帯電話やスマートフォンの所持率や使用時間は増加しているが、「メール」や「掲示板」の利用は大きく減少している。これらに代わる新しいサービスやツールに、児童生徒のコミュニケーションの場が移行してきている。

### ◆【使い方のルールやマナーについて】

- ・すべての学年において、「学校の授業等で情報モラルや携帯電話のマナーについて勉強したことがある」と回答した割合が増加している。特に小6や中3において増加した。
- ・携帯電話やスマートフォンを所有している児童生徒のうち、「家で携帯電話の利用の仕方の決まりはない」と回答している割合は、小・中・高とも過半数を超えている。高校生においては、70%近くが「自由に使用できる」と回答している。

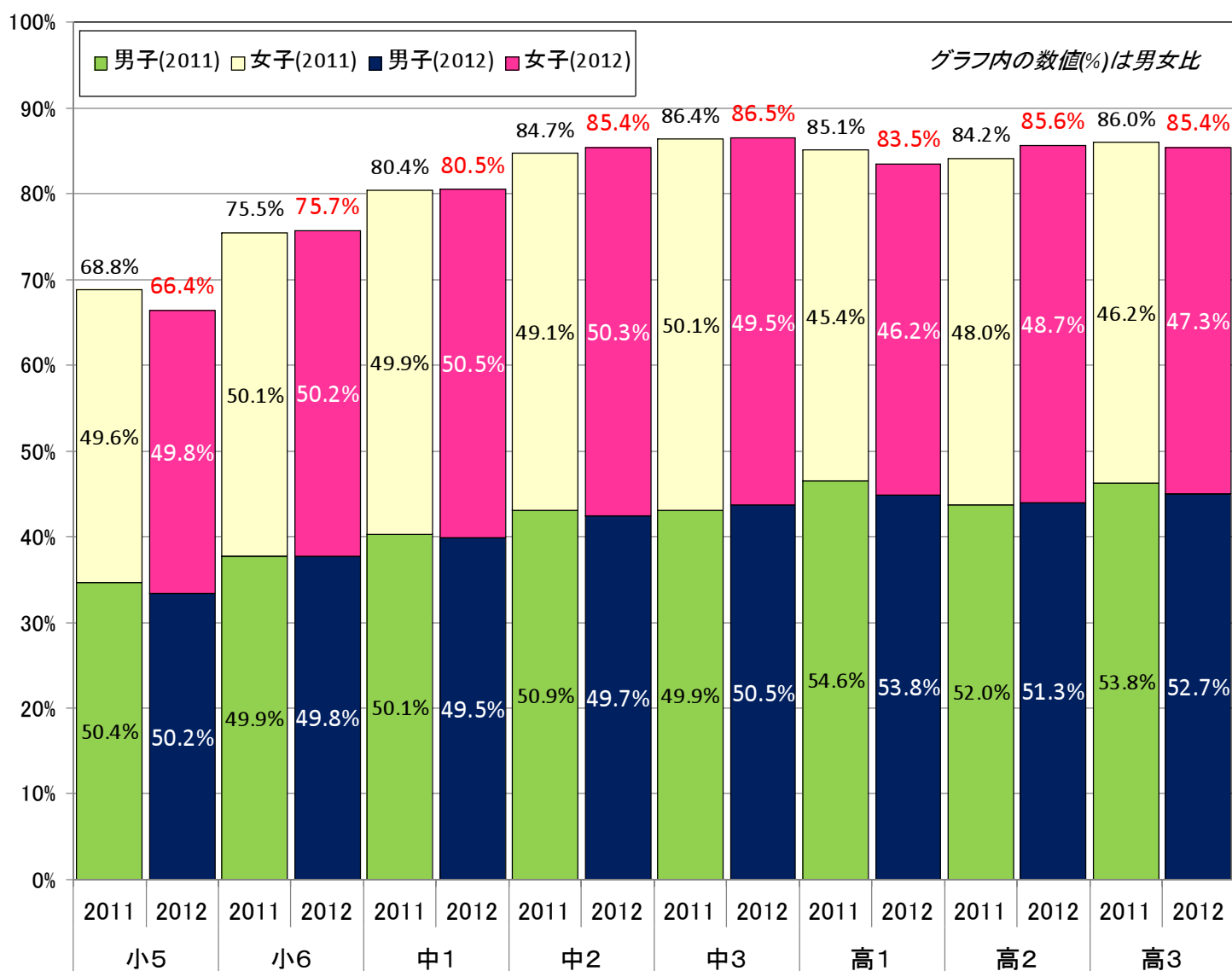
### ◆【被害・ネットいじめとその対応について】

- ・すべての学年において、ネットやメールでの被害体験率は減少し、昨年度の約60%程度になっている。
- ・被害に遭ったことがある割合は多くはないが、「被害に遭って解決できず今も続いている」や「いじめをうけたことがある」と回答した児童生徒が存在しており、指導と相談体制の充実が求められる。
- ・ほとんどの学年で「被害を受けたとき解決方法を知っていたので自分で解決した」が減少し、「どうすればよいかわからず、そのままにした」が増加している。
- ・被害に遭ったとき、中・高校生においては「誰かに相談した」と回答した割合は増加したが、小学生では減少している。また、中・高校生は、「学校でのトラブル」や「友達との人間関係のトラブル」を原因とする割合が増加し、「先生に相談した」が倍増している。

### ◆【指導のための参考資料】

- ・「情報モラル指導モデルカリキュラム」(文部科学省 平成19年5月23日)  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/1296900.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1296900.htm)
- ・「インターネットトラブル事例集(Vol. 3)」  
 (総務省「インターネット利用におけるトラブル事例等に関する調査研究」(平成23年度))  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/kyouiku\\_joho-ka/jireishu.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html)
- ・「めざせ！ ネット安全ドライブ」(H24 情報モラル育成に関するリーフレット 岐阜県教育委員会 平成24年12月)  
<http://gakuen.gifu-net.ed.jp/~contents/tyo/newpage1.htm>

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
		ある	2012	66.4%	75.7%	80.5%	85.4%	86.5%	83.5%	85.6%	85.4%	71.1%
	2011	68.8%	75.5%	80.4%	84.7%	86.4%	85.1%	84.2%	86.0%	72.2%	83.9%	85.1%



### 【傾向】

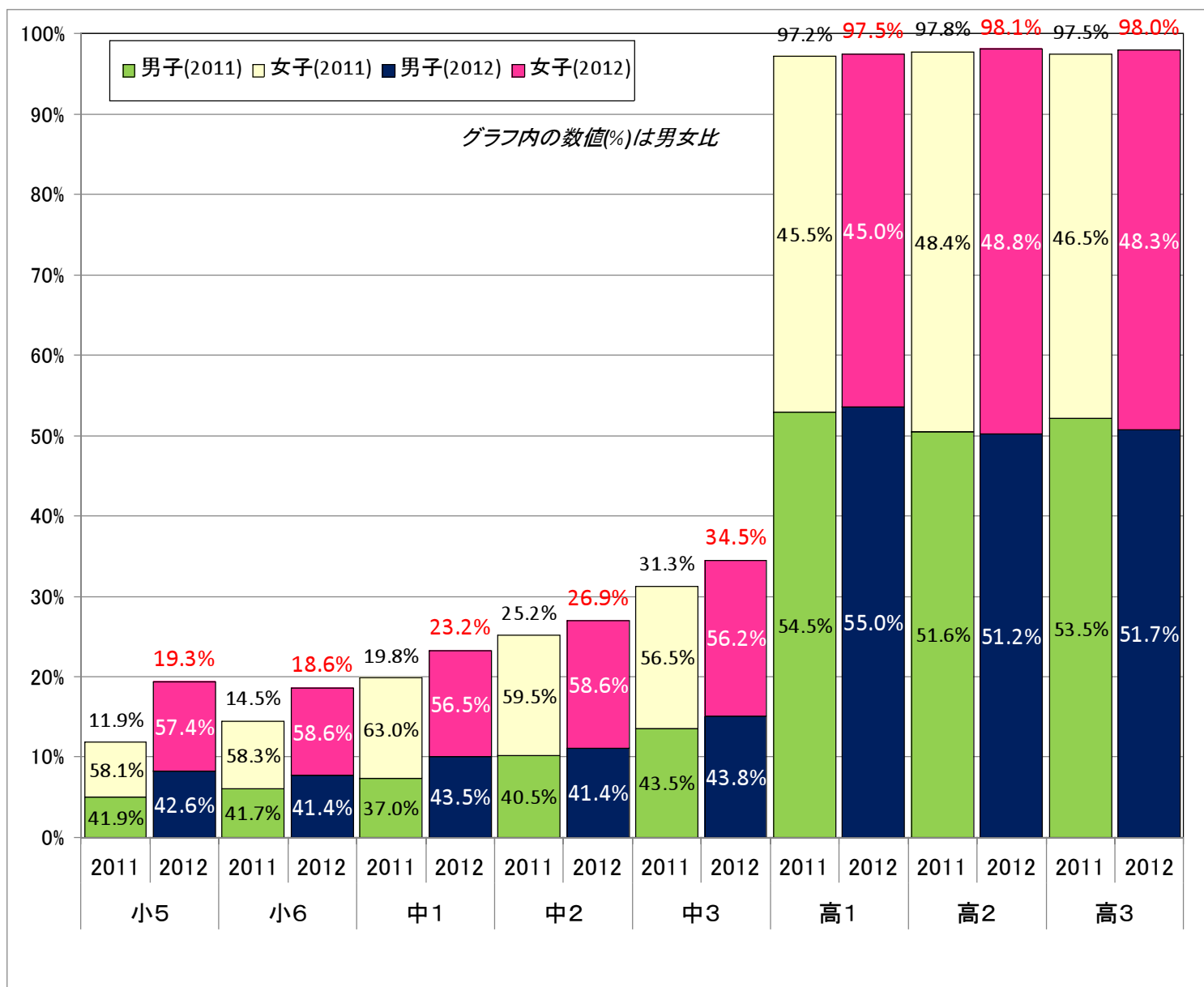
◆家庭でインターネットが使用できる環境が広がっている。小学生においても、多くの家庭でインターネットに接続できるPCが使用可能な環境にある。

### 【指導のポイント】 家庭のインターネット環境のすべてにフィルタリング

○タブレット型のPCやインターネットに接続できるゲーム機が普及しつつあり、児童生徒がより自由にインターネットを使用できるようになってきている。児童生徒が「一人きり」で使っていることがないかに視点をあてる。また、閲覧履歴を確認するなど、児童生徒の利用状況を常に保護者が把握している状況にするよう啓発する。

○児童生徒が使用するPCやゲーム機器等のすべてに「フィルタリング」を設定し、有害な情報に触れさせないよう保護者に啓発する。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小_平均	中_平均	高_平均
もっている	2012	19.3%	18.6%	23.2%	26.9%	34.5%	97.5%	98.1%	98.0%	18.9%	28.4%	97.9%
	2011	11.9%	14.5%	19.8%	25.2%	31.3%	97.2%	97.8%	97.5%	13.2%	25.6%	97.5%



【傾 向】

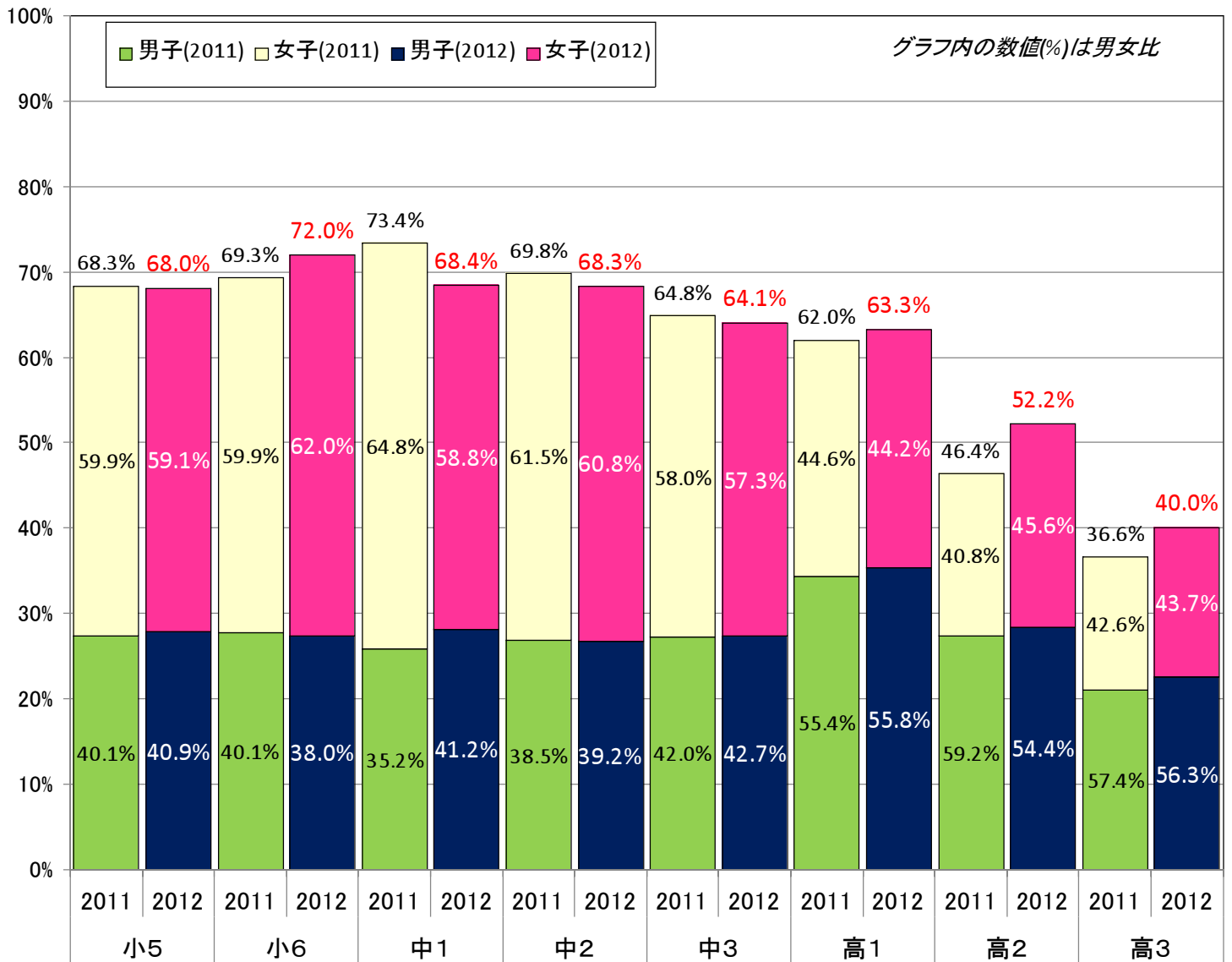
◆小・中学生は近年、所持率が減少してきていたが、全学年で増加傾向に転じた。特に小学生の所持率が顕著に増加し、携帯電話等を持ち始める時期が低年齢化している。大半の生徒は高校入学を機に自分の携帯電話等をもつ場合が多い。

【指導のポイント】 小・中・高の継続的な情報モラル教育

○携帯電話所持率が高校から急激に増加するが、情報モラルに関する指導は高校だけの問題ではない。小・中学校と高校との接続を考慮した見通しをもった指導が必要である。

○情報モラルが不十分な状況で携帯電話を使用する場合は、危険性が高くなる。小・中学校においても、携帯電話所持の有無に関わらず、情報モラル教育を系統的・計画的に行う必要がある。小学校低学年から高校生まで、継続的に繰り返して、情報モラル教育を行う。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小_平均	中_平均	高_平均
している	2012	68.0%	72.0%	68.4%	68.3%	64.1%	63.3%	52.2%	40.0%	70.0%	66.6%	51.9%
	2011	68.3%	69.3%	73.4%	69.8%	64.8%	62.0%	46.4%	36.6%	68.9%	68.6%	48.6%



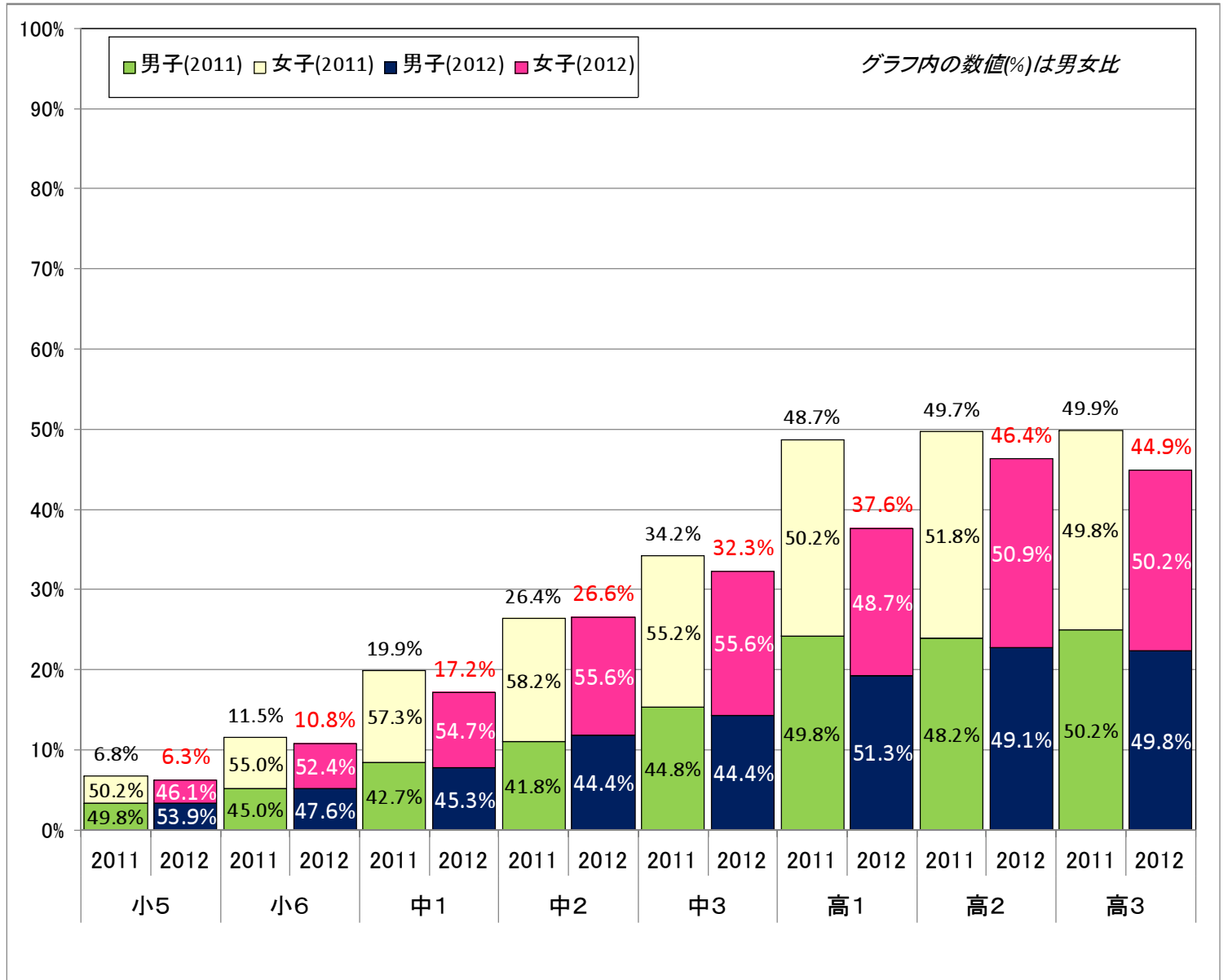
### 【傾向】

◆高校生のフィルタリング率が向上している。また、中学生のフィルタリング率はこれまで増加傾向にあったが、減少傾向に転じた。一方、性被害などの深刻なトラブルに遭いやすい女子高校生のフィルタリング率が特に低く、問題である。

### 【指導のポイント】 スマートフォンにおけるフィルタリングや閲覧制限設定の保護者への啓発

○スマートフォンは、フィルタリングの設定をしても、インターネットへの接続の方法(Wi-Fi等)によって、フィルタリングが機能しないことがある。そのような場合は危険なサイトを含むすべてのサイトが閲覧できてしまうようになるので、特に注意が必要である。保護者に対して、スマートフォンの本体自体に閲覧制限アプリをインストールするなどの対応を薦めたり、安易にフィルタリング設定を解除したりしないよう啓発する。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小_平均	中_平均	高_平均
ある	2012	6.3%	10.8%	17.2%	26.6%	32.3%	37.6%	46.4%	44.9%	8.5%	25.6%	42.9%
	2011	6.8%	11.5%	19.9%	26.4%	34.2%	48.7%	49.7%	49.9%	9.2%	27.0%	49.4%



【傾向】

◆高校生を中心に「掲示板」への書き込みは大きく減少している。また、近年いわゆる「学校裏サイト」への書き込みは、減少傾向にある。

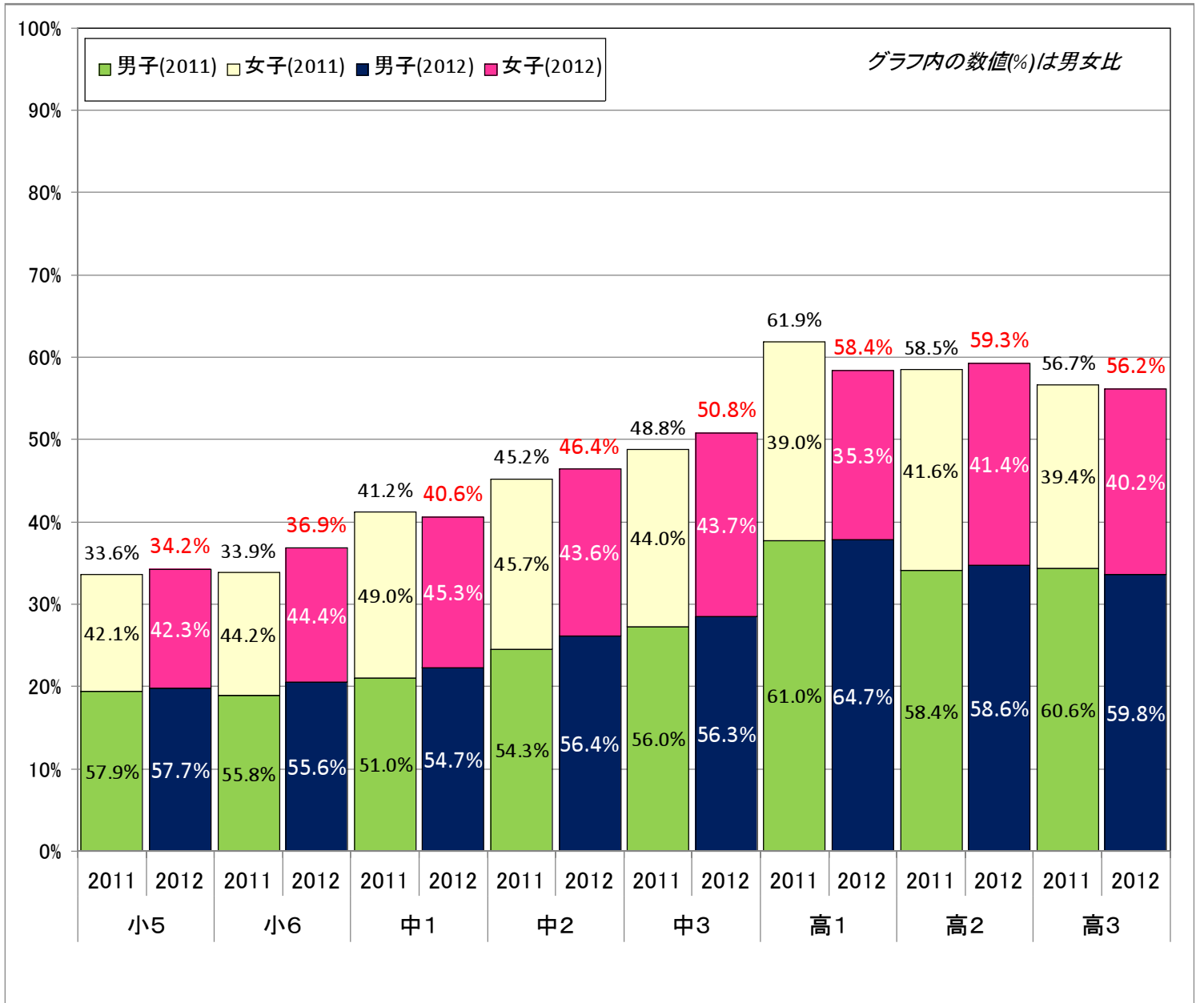
【指導のポイント】 新しいサイトやサービスへの対応

○不特定多数が閲覧する「掲示板」への書き込みは減少しており、同じ学年や部活動などの仲間でグループをつくってコメントや発言ができるサイトやサービスを利用する場合が増加している。仲間同士の書き込みであっても、けんかやいじめなどに発展してしまうことがあり、深刻なトラブルとなる場合も少なくない。軽い気持ちでの安易な発言に注意するよう指導する。

**Q5**

あなたは、オンラインゲームをしたことがありますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小_平均	中_平均	高_平均
ある	2012	34.2%	36.9%	40.6%	46.4%	50.8%	58.4%	59.3%	56.2%	35.5%	46.1%	58.0%
	2011	33.6%	33.9%	41.2%	45.2%	48.8%	61.9%	58.5%	56.7%	33.7%	45.2%	59.0%



**【傾向】**

◆小・中学生を中心にオンラインゲームの使用率が増加している。相対的に女子より男子の方がオンラインゲームに興じる傾向にある。

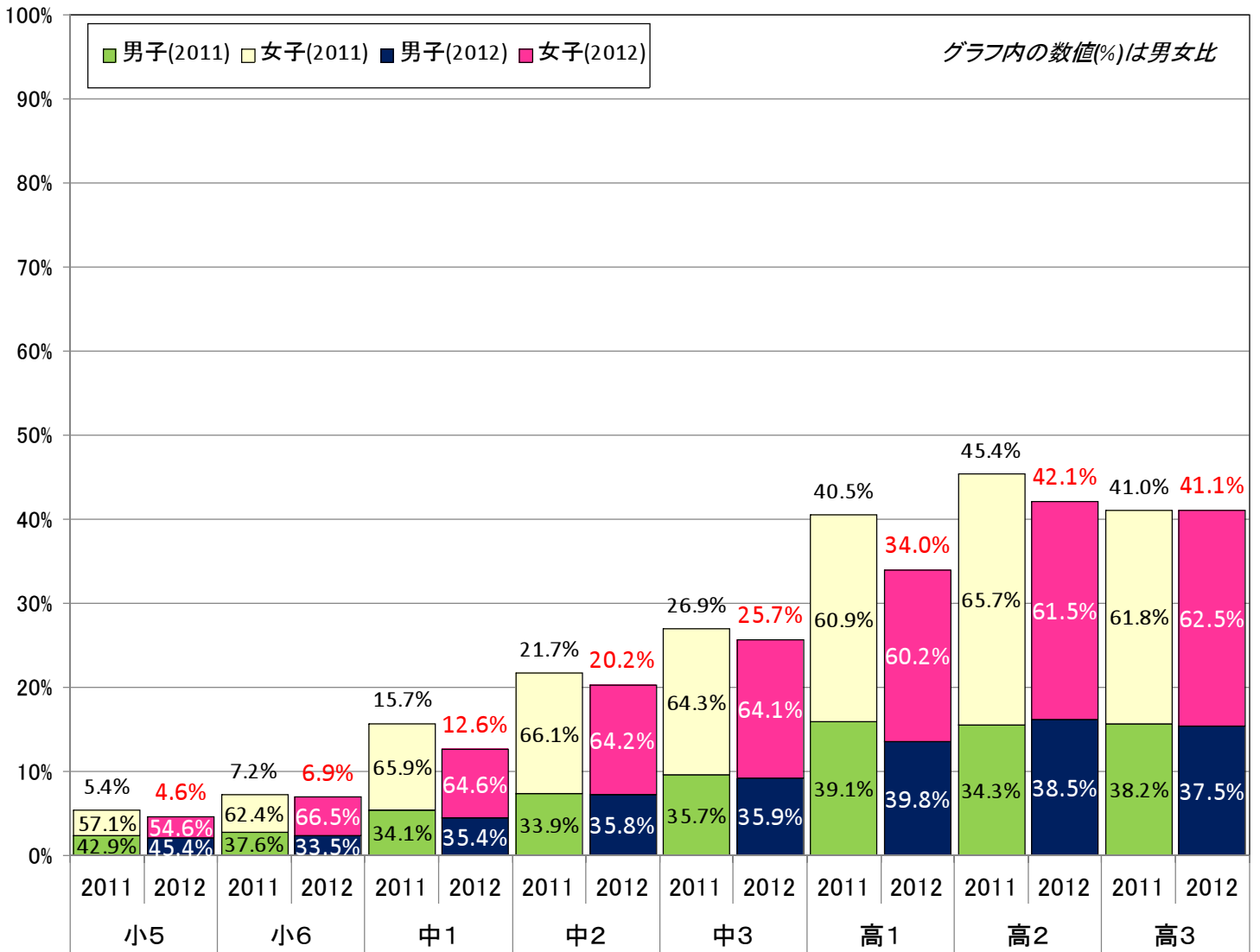
**【指導のポイント】** 不正アクセス禁止法・長時間使用による健康被害や生活への影響

○他人のIDやパスワードを盗んだり、巧みに聞き出したりして、ゲームのポイントやアイテムを騙し盗ってしまう事案が起こっている。この行為は「不正アクセス禁止法」にあたり、大変重い罪となる。他人のIDやパスワードを悪用しないことと、自分のIDやパスワードを他人に知られないようにすることを十分に指導する。また、オンラインゲームでは、人と競ったり、共同して目的を達成したりするため、長い時間興じる傾向にある。健康被害や他の生活への影響についても考えさせる。

**Q6**

あなたは、携帯電話やパソコンから見ることができる自分のホームページ(ブログ・プロフを含む)をもっていますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小_平均	中_平均	高_平均
もっている	2012	4.6%	6.9%	12.6%	20.2%	25.7%	34.0%	42.1%	41.1%	5.7%	19.7%	39.0%
	2011	5.4%	7.2%	15.7%	21.7%	26.9%	40.5%	45.4%	41.0%	6.3%	21.6%	42.3%



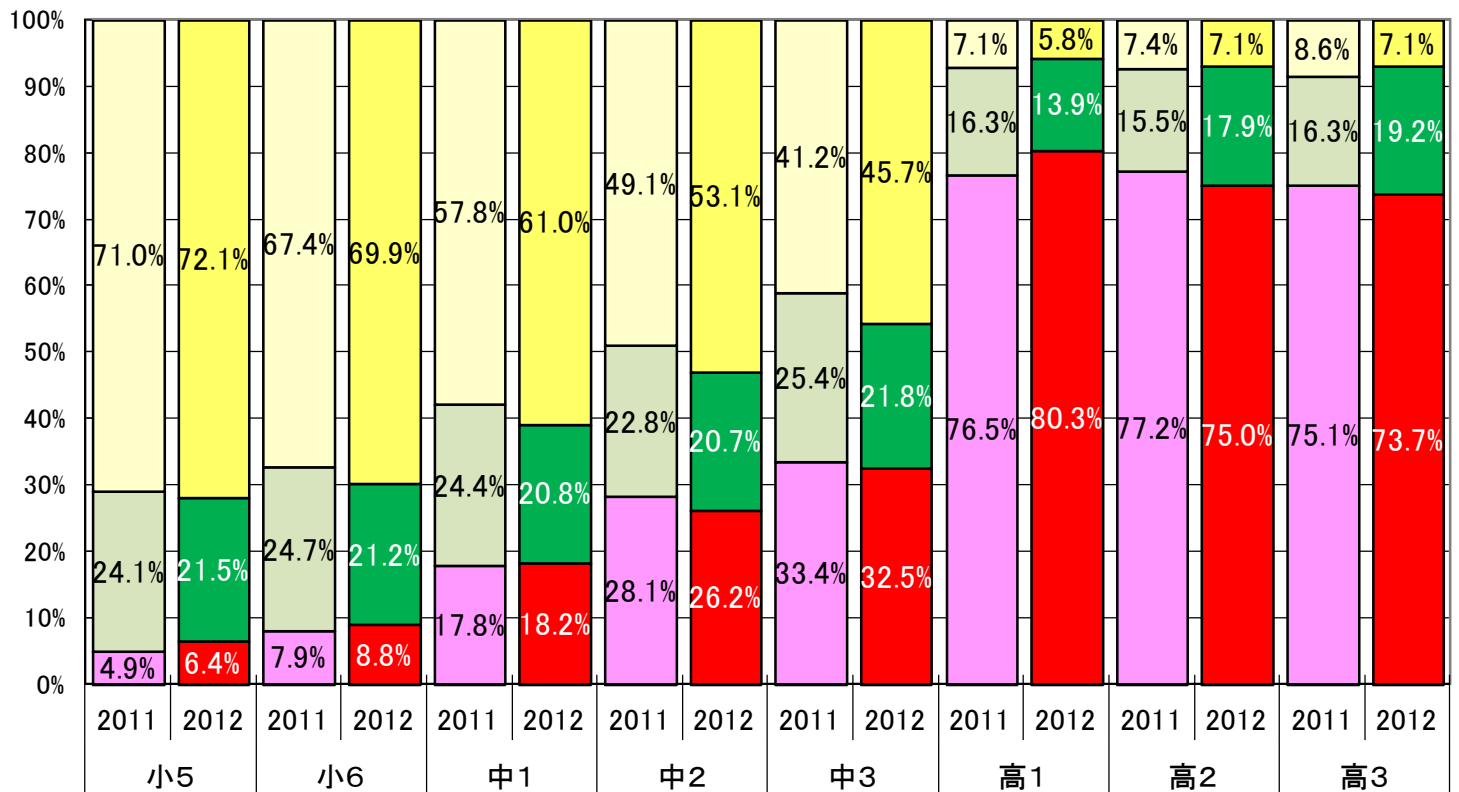
**【傾向】**

◆HPやブログ・プロフを作成している割合はこれまで増加傾向にあったが、多くの学年で減少に転じた。相対的に、男子より女子の利用率が大変高く、特に女子高校生においては、過半数の生徒が自分のホームページ(ブログやプロフを含む)を持っている状況である。

**【指導のポイント】 安易な情報発信により類推される個人情報**

○たとえば、自分の氏名や住所を記載していなくても、その日の出来事などを、長い期間にわたって情報発信し続けることによって、様々な個人情報等が他者に類推されやすくなる。場合によってはそれらの情報をもとに、「つきまとい」や「脅迫」などの被害にあう可能性があり、安易に自分の情報を発信しないよう確実に指導する必要がある。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
ほぼ毎日使う	2012	6.4%	8.8%	18.2%	26.2%	32.5%	80.3%	75.0%	73.7%	7.6%	25.9%	76.4%
	2011	4.9%	7.9%	17.8%	28.1%	33.4%	76.5%	77.2%	75.1%	6.4%	26.7%	76.3%
たまに使うだけ	2012	21.5%	21.2%	20.8%	20.7%	21.8%	13.9%	17.9%	19.2%	21.3%	21.1%	17.0%
	2011	24.1%	24.7%	24.4%	22.8%	25.4%	16.3%	15.5%	16.3%	24.4%	24.2%	16.0%
使っていない	2012	72.1%	69.9%	61.0%	53.1%	45.7%	5.8%	7.1%	7.1%	71.0%	53.0%	6.7%
	2011	71.0%	67.4%	57.8%	49.1%	41.2%	7.1%	7.4%	8.6%	69.2%	49.1%	7.7%



■ ほぼ毎日使う(2011)      ■ たまに使う(2011)      ■ 使っていない(2011)  
■ ほぼ毎日使う(2012)      ■ たまに使う(2012)      ■ 使っていない(2012)

### 【傾向】

◆ 「ほぼ毎日使う」と「たまに使う」の回答の比率を比較すると、高学年になるにつれ「ほぼ毎日使う」が占める割合が次第に増加していく。高校生においては、80%近くの生徒が「ほぼ毎日使う」と回答している。

### 【指導のポイント】 「常にさわっていないと落ち着かない」状況・日常生活への影響

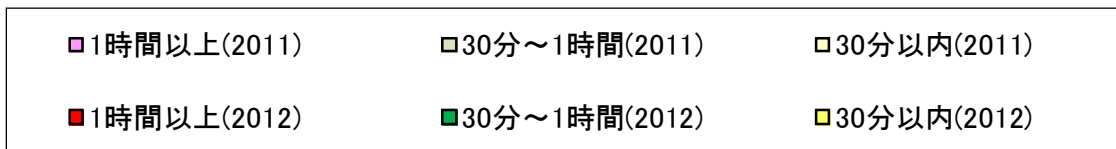
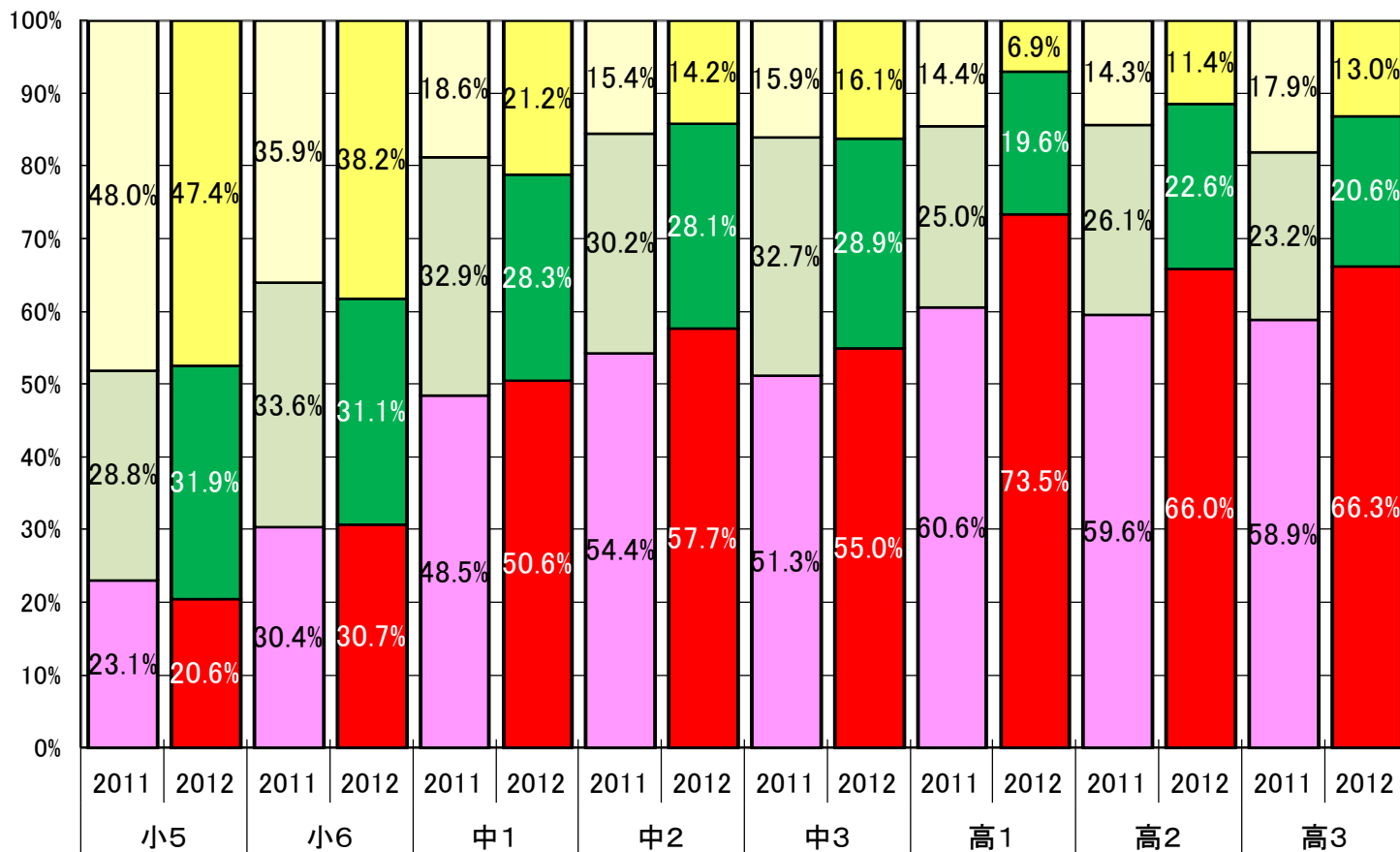
○初めは親との連絡などに主に使用していても、次第に仲間とのコミュニケーションやゲーム、ブログなどの情報発信など様々な用途に使用するように変わっていく。「仲間と常につながりたい」とか「ゲームで目的を達成したい」とかという思いから、毎日欠かさず使用するようになっていく。「常にさわっていないと落ち着かない」といった依存症などの健康被害や、日常生活への影響について、自分を見つめ、考える場を位置づけ指導する。



**Q8**

Q7で「ほぼ毎日」と答えた人は、使う時間は1日当たりどれくらいですか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
1時間以上	2012	20.6%	30.7%	50.6%	57.7%	55.0%	73.5%	66.0%	66.3%	26.5%	55.0%	68.8%
	2011	23.1%	30.4%	48.5%	54.4%	51.3%	60.6%	59.6%	58.9%	27.7%	51.8%	59.7%
30分～1時間	2012	31.9%	31.1%	28.3%	28.1%	28.9%	19.6%	22.6%	20.6%	31.4%	28.5%	20.9%
	2011	28.8%	33.6%	32.9%	30.2%	32.7%	25.0%	26.1%	23.2%	31.8%	31.9%	24.8%
30分以内	2012	47.4%	38.2%	21.2%	14.2%	16.1%	6.9%	11.4%	13.0%	42.1%	16.5%	10.3%
	2011	48.0%	35.9%	18.6%	15.4%	15.9%	14.4%	14.3%	17.9%	40.5%	16.3%	15.5%



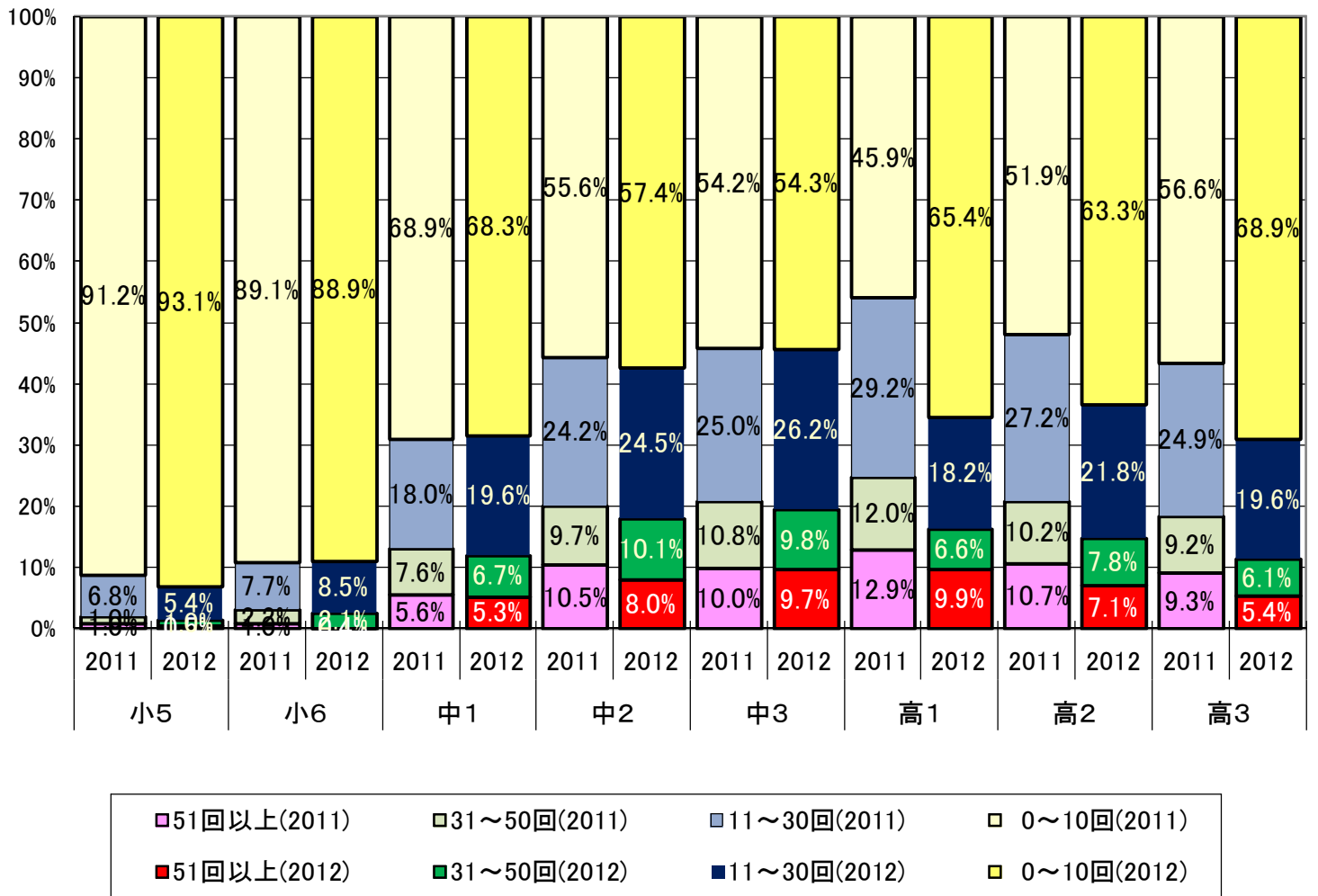
**【傾向】**

◆中学生・高校生の「一日に1時間以上使用する」と回答した割合が顕著に増加している。特に高校1年生においては、73.5%の生徒が、「一日に1時間以上使用する」と回答している。

**【指導のポイント】 スマートフォンによる使用時間の長時間化**

○必要な時だけ携帯電話やスマートフォンを使用するのではなく、時間があればすぐにさわるようになってしまう場合が少なくない。特にスマートフォンにはゲームなどの様々なアプリケーションがインストールできるので、児童生徒にとって大変魅力的なツールとなり、使用頻度や使用時間は多くなりがちである。家庭でのルールをつくるよう啓発するとともに、児童生徒に対して、「使用時間や使用方法を自らコントロールできる力」を養う。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
51回以上	2012	0.5%	0.4%	5.3%	8.0%	9.7%	9.9%	7.1%	5.4%	0.5%	8.0%	7.5%
	2011	1.0%	1.0%	5.6%	10.5%	10.0%	12.9%	10.7%	9.3%	1.0%	9.0%	11.0%
31回～50回	2012	1.0%	2.1%	6.7%	10.1%	9.8%	6.6%	7.8%	6.1%	1.6%	9.1%	6.8%
	2011	1.0%	2.2%	7.6%	9.7%	10.8%	12.0%	10.2%	9.2%	1.7%	9.6%	10.5%
11回～30回	2012	5.4%	8.5%	19.6%	24.5%	26.2%	18.2%	21.8%	19.6%	7.0%	23.9%	19.9%
	2011	6.8%	7.7%	18.0%	24.2%	25.0%	29.2%	27.2%	24.9%	7.2%	22.9%	27.2%
0回～10回	2012	93.1%	88.9%	68.3%	57.4%	54.3%	65.4%	63.3%	68.9%	90.9%	59.0%	65.8%
	2011	91.2%	89.1%	68.9%	55.6%	54.2%	45.9%	51.9%	56.6%	90.1%	58.6%	51.3%



【傾向】

◆高校生の電子メールを使う頻度が減少している。一方で、依然として中学生・高校生において、「1日に51回以上」電子メールを使っている生徒も少なくない。

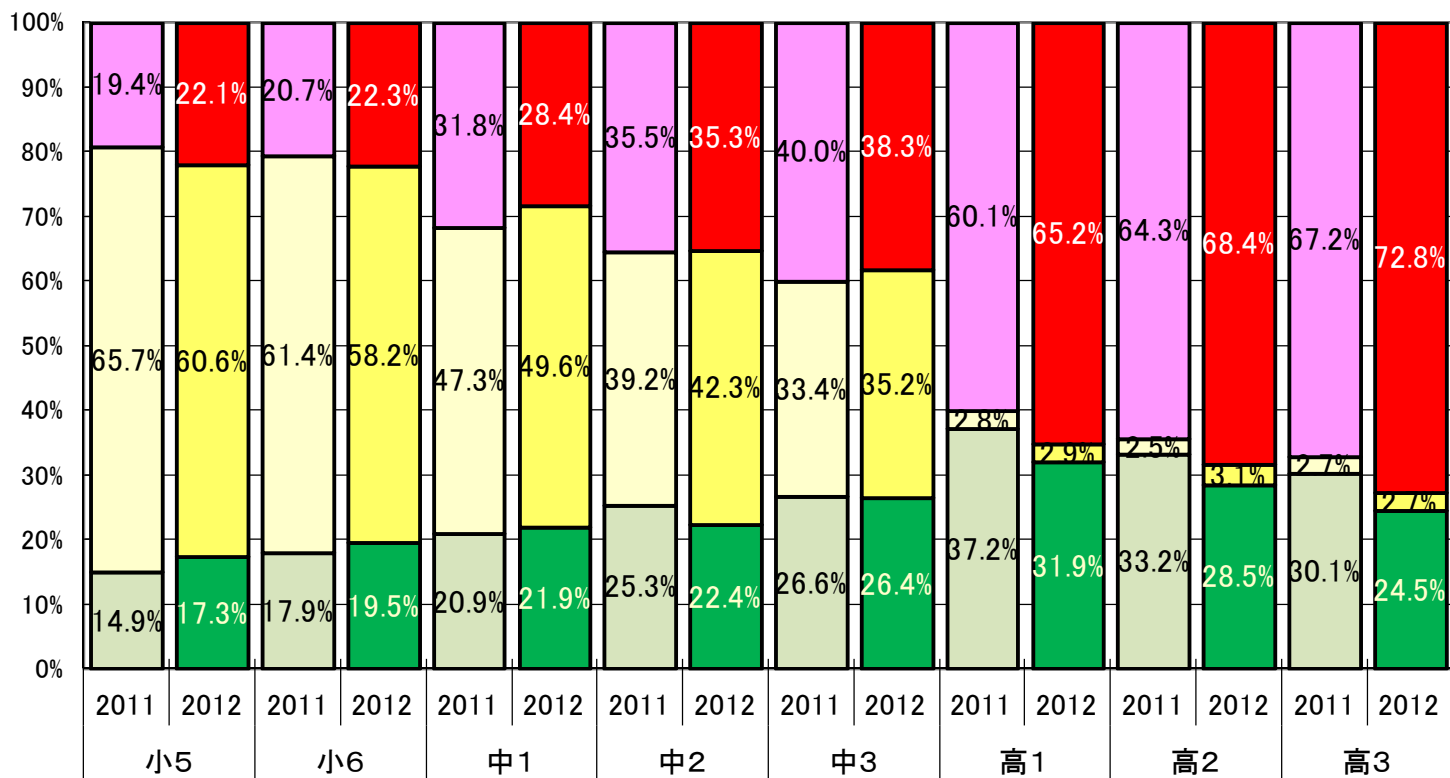
【指導のポイント】 「メール」に変わる新しいコミュニケーションサービスへの対応

○電子メールに代わるコミュニケーションサービスの使用が児童生徒に広がっているため、電子メールを使用する児童生徒が減少しているのではと推測される。これらのサービスは、電子メールよりも、気軽に「会話」ができ、よりコミュニケーションをしやすくなっている。気軽に利用できる反面、深く考えずに安易に発言をし、相手を傷つけてしまう場合もある。自分自身の発言の重みや責任について、より一層留意しながら使用するよう指導が必要である。

# Q10

あなたの家では、子どもが使う携帯電話（兄弟姉妹のものも含む）の利用のしかた（利用時間や利用料金など）は決められていますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
決められている	2012	17.3%	19.5%	21.9%	22.4%	26.4%	31.9%	28.5%	24.5%	18.4%	23.6%	28.3%
	2011	14.9%	17.9%	20.9%	25.3%	26.6%	37.2%	33.2%	30.1%	16.4%	24.3%	33.6%
使っていない	2012	60.6%	58.2%	49.6%	42.3%	35.2%	2.9%	3.1%	2.7%	59.4%	42.2%	2.9%
	2011	65.7%	61.4%	47.3%	39.2%	33.4%	2.8%	2.5%	2.7%	63.5%	39.8%	2.6%
決められていない	2012	22.1%	22.3%	28.4%	35.3%	38.3%	65.2%	68.4%	72.8%	22.2%	34.2%	68.8%
	2011	19.4%	20.7%	31.8%	35.5%	40.0%	60.1%	64.3%	67.2%	20.0%	35.8%	63.8%



決められている(2011)       使っていない(2011)       決められていない(2011)  
 決められている(2012)       使っていない(2012)       決められていない(2012)

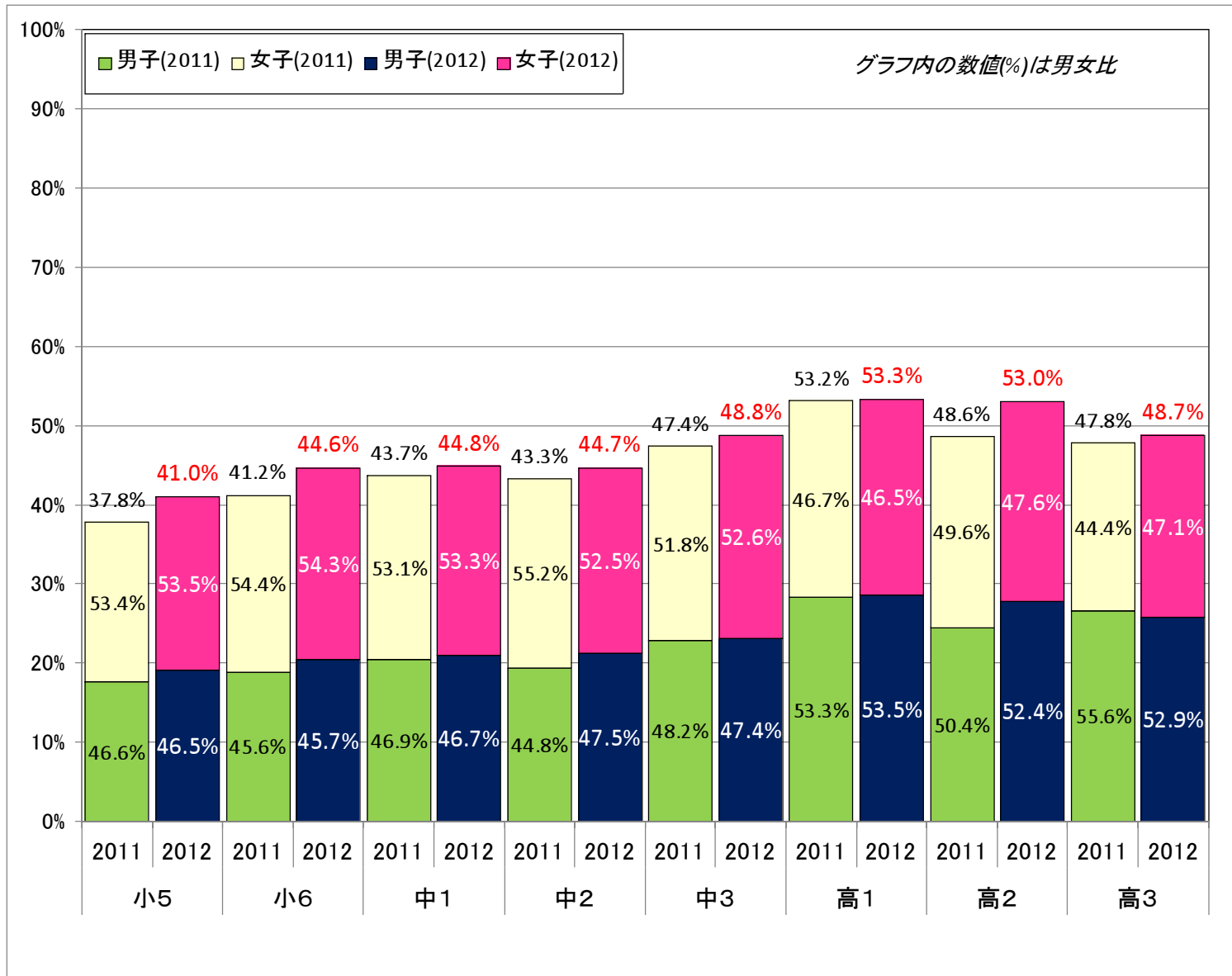
## 【傾向】

◆ 高校生の「家庭で利用の仕方が決められていない」と回答した割合が顕著に増加し、70%近い生徒がルールを伴わず自由に使用していると回答している。また、携帯電話等を所有する児童生徒のみを対象とした割合に換算すると、小学生を含めたすべての学年で「家庭で利用の仕方が決められていない」と回答している児童生徒は50%を超えている。

## 【指導のポイント】 保護者に対する家庭内でのルールづくりの啓発

○ 家庭でルールがある場合でも、ただ単に支払料金に関わるものもある。過度な使用による高額請求のみでなく、犯罪に巻き込まれたり、いじめ等の人間関係のトラブルの原因となったり、健康被害や生活全体への影響を受けたりするなど、ネットにおけるトラブルは多岐にわたる。保護者に、それらのトラブル全般について広く関心をもつように働きかけ、マナーよく、安全で適切に使用することができるためのルールづくりをするように啓発を行う。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
ある	2012	41.0%	44.6%	44.8%	44.7%	48.8%	53.3%	53.0%	48.7%	42.8%	46.1%	51.7%
	2011	37.8%	41.2%	43.7%	43.3%	47.4%	53.2%	48.6%	47.8%	39.5%	44.8%	49.9%



【傾向】

◆どの学年においても、家庭において、情報モラルや携帯電話のマナーについての話を聞く機会が増加しており、特に小学生の家庭において顕著である。しかし、情報モラルについて一度も話題にされていない家庭が半数程度ある。

【指導のポイント】 保護者（PTA）との連携による情報モラル指導

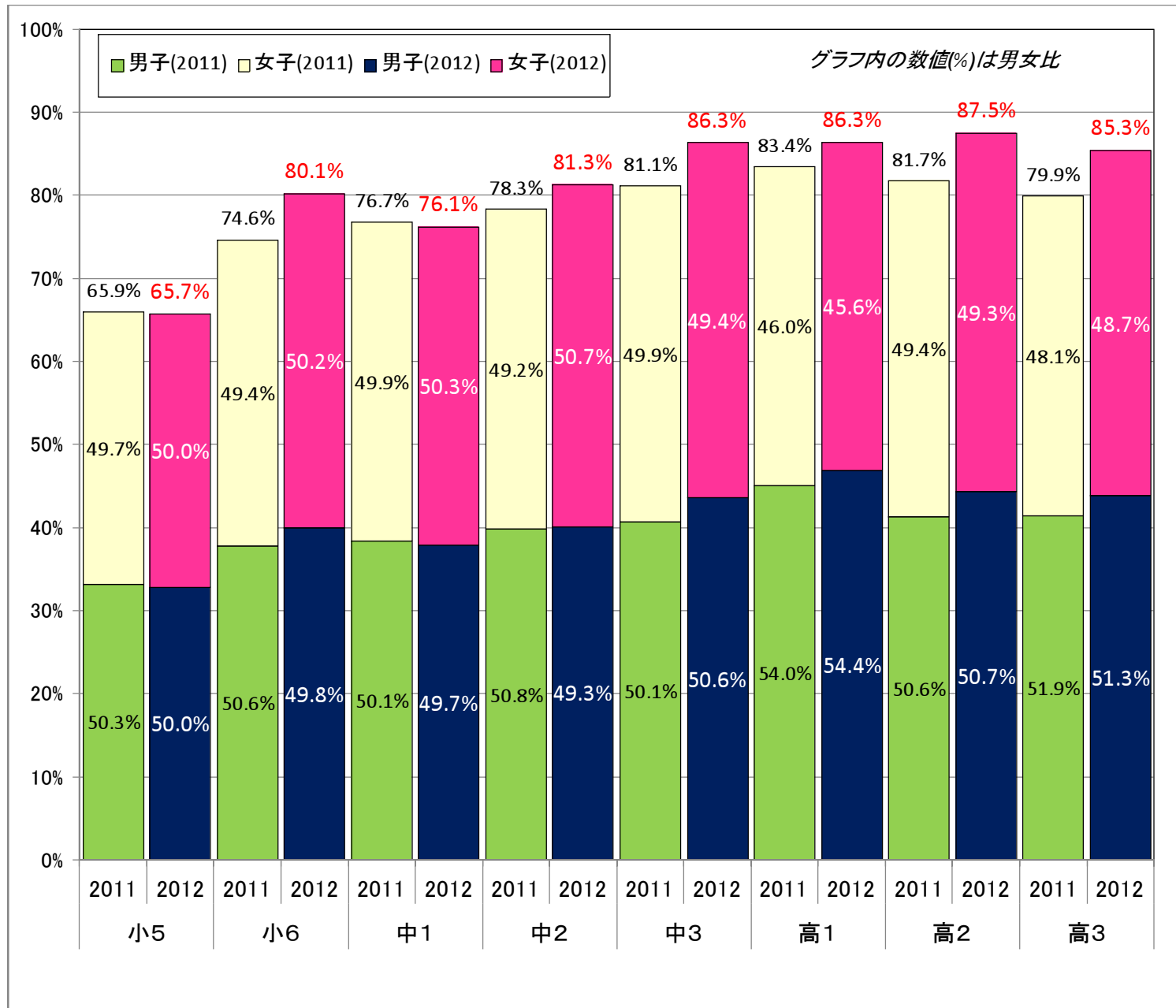
○携帯電話やスマートフォンを購入するのは保護者である。購入後の使用状況を常に把握し、継続的に、管理・見守りをするよう啓発をする。児童生徒の使用状況が思わしくない場合には、使用の制限をするなど、保護者の積極的な関わりを促す。

○家庭教育学級やPTA総会等で、情報モラル教育をテーマとし、保護者への啓発を行うのは大変有効である。また、PTA広報や学校便りなどで、情報モラルに関わる記事を特集することも効果的である。

# Q12

あなたは、学校の授業(朝の会、帰りの会を含む)で、情報モラルや携帯電話のマナーについて勉強したことがありますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
ある	2012	65.7%	80.1%	76.1%	81.3%	86.3%	86.3%	87.5%	85.3%	72.9%	81.4%	86.4%
	2011	65.9%	74.6%	76.7%	78.3%	81.1%	83.4%	81.7%	79.9%	70.3%	78.8%	81.7%



## 【傾向】

◆小・中・高とも、情報モラルに関わる学習体験をもつ児童生徒が増加している。特に小6や中3及び高校生において、顕著に増加した。

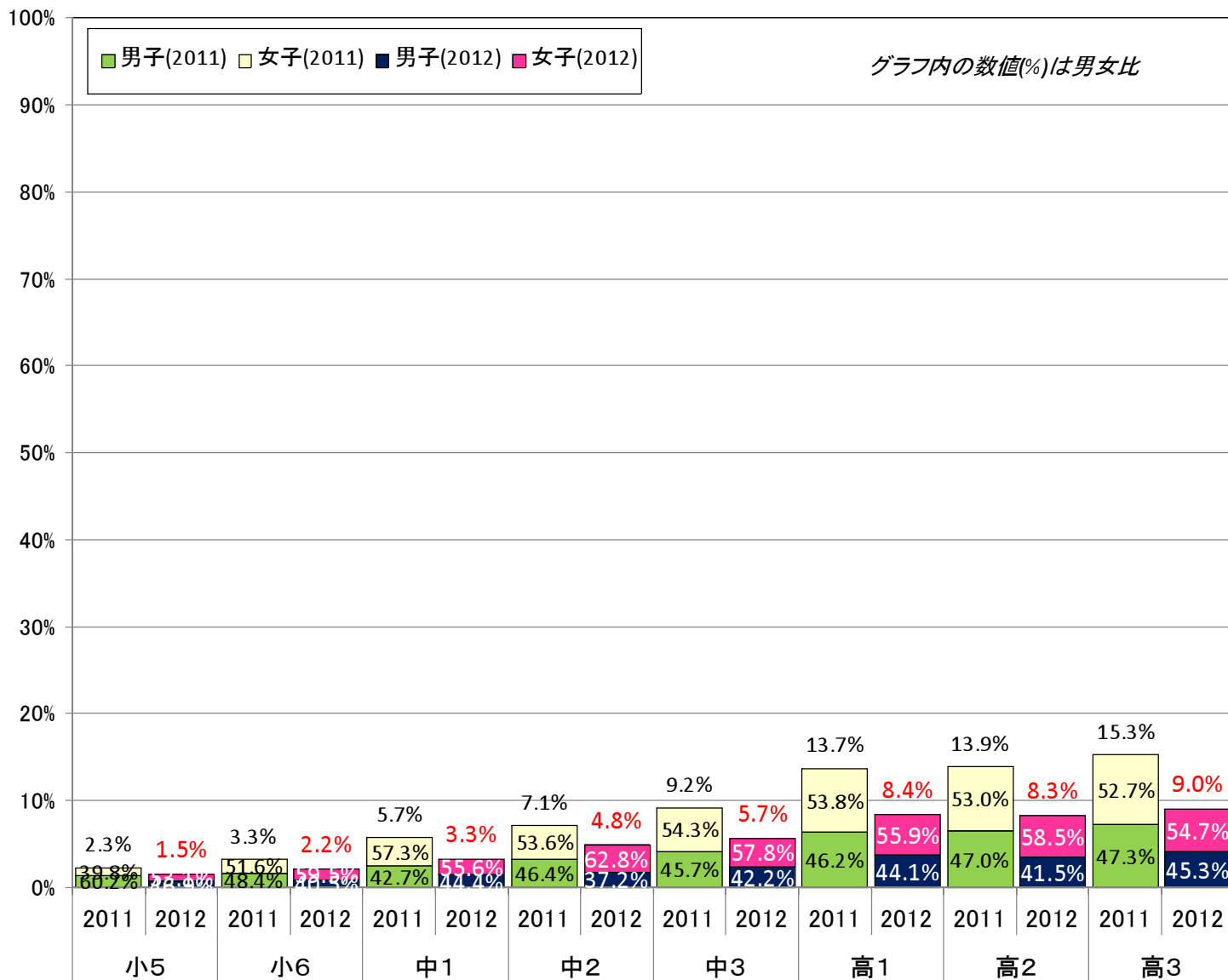
## 【指導のポイント】 情報モラル指導は100%実施

○小学校や中学校の最終学年において、情報モラル指導が積極的に行われている。児童生徒が携帯電話等を持つようになってから指導するのではなく、「情報モラル指導モデルカリキュラム」(文部科学省)などを参考にして、小学校低学年から意図的・計画的に指導を行うと、さらに効果的である。

# Q13

あなたは、インターネットや携帯メールや掲示板などで、被害を受けたり、いやな思いをしたりしたことがありますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小_平均	中_平均	高_平均
ある	2012	1.5%	2.2%	3.3%	4.8%	5.7%	8.4%	8.3%	9.0%	1.8%	4.6%	8.6%
	2011	2.3%	3.3%	5.7%	7.1%	9.2%	13.7%	13.9%	15.3%	2.8%	7.4%	14.3%



## 【傾向】

◆すべての学年において、被害体験率が大きく減少し、昨年度の60%程度になっている。男女別では、どの学年においても女子の方が、被害に遭ったり、いやな思いをしたりする割合が高い。

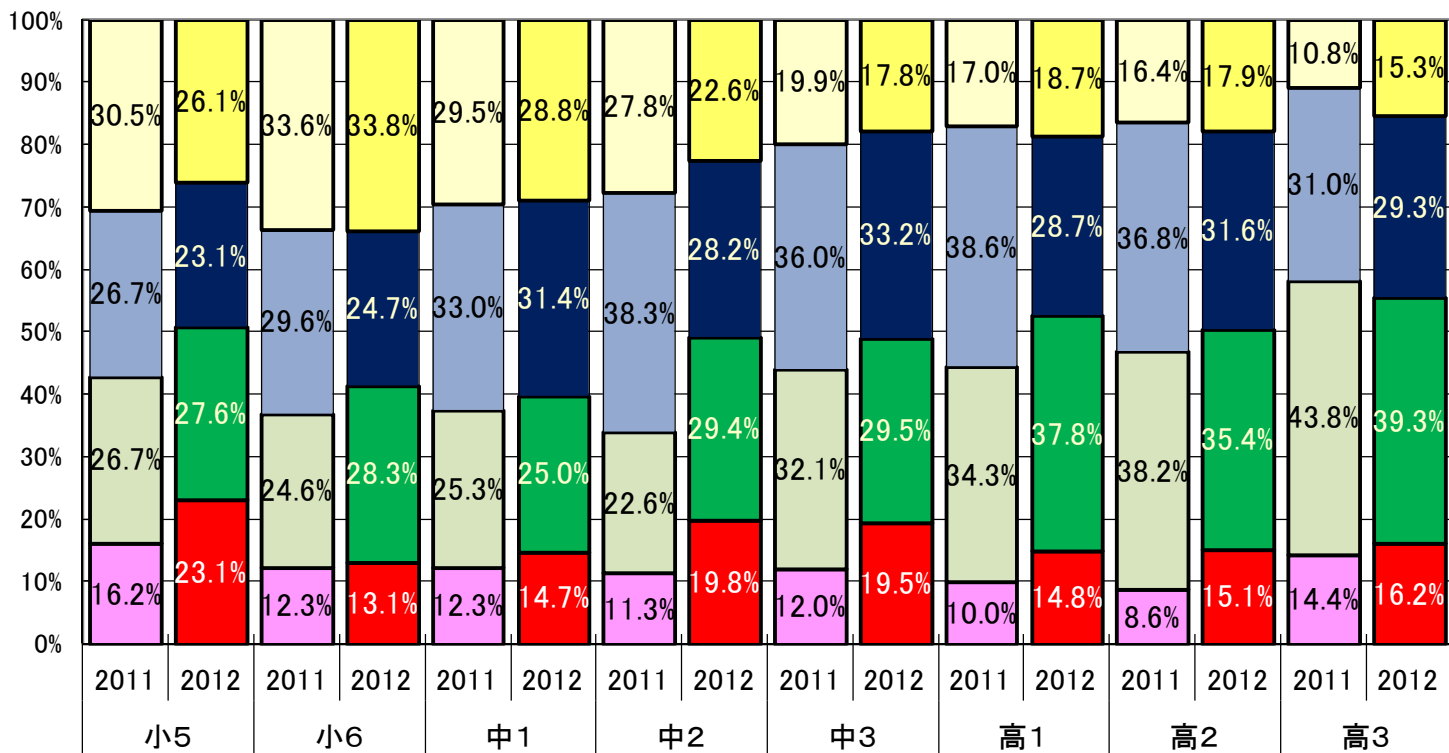
## 【指導のポイント】 ネットパトロールによる危険な書き込みの早期発見

○情報モラルに関わる指導の効果が、次第に現れてきており、児童生徒が、一般に誰もが閲覧できる「掲示板」等へ書き込みする行為や自分の個人情報を書き込む事例は減少傾向にある。今後も指導を充実させるとともに、「学校名」をキーワードとして検索するなど、各学校においても定期的にネットパトロールを行い、危険な書き込みの早期発見に努め、指導に生かす。

# Q14

被害を受けたとき、どうしましたか。(Q13で「ある」と答えた人のみ)

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
どうしていいかわからなかった ので、そのままにした	2012	23.1%	13.1%	14.7%	19.8%	19.5%	14.8%	15.1%	16.2%	17.2%	18.6%	15.4%
	2011	16.2%	12.3%	12.3%	11.3%	12.0%	10.0%	8.6%	14.4%	13.9%	11.8%	11.1%
何もしない方がいい と思って、そのままにした	2012	27.6%	28.3%	25.0%	29.4%	29.5%	37.8%	35.4%	39.3%	28.0%	28.5%	37.5%
	2011	26.7%	24.6%	25.3%	22.6%	32.1%	34.3%	38.2%	43.8%	25.4%	27.3%	38.9%
解決方法を知っていた ので、自分で解決した	2012	23.1%	24.7%	31.4%	28.2%	33.2%	28.7%	31.6%	29.3%	24.1%	31.0%	29.8%
	2011	26.7%	29.6%	33.0%	38.3%	36.0%	38.6%	36.8%	31.0%	28.4%	36.0%	35.4%
その他(相談等を含む)	2012	26.1%	33.8%	28.8%	22.6%	17.8%	18.7%	17.9%	15.3%	30.7%	22.0%	17.2%
	2011	30.5%	33.6%	29.5%	27.8%	19.9%	17.0%	16.4%	10.8%	32.3%	24.9%	14.7%



- どうしていいのかわからなかったので、そのままにした(2011)
- 何もしない方がいいと思って、そのままにした(2011)
- 解決方法を知っていたので自分で解決した(2011)
- その他(相談等を含む)(2011)
- どうしていいのかわからなかったので、そのままにした(2012)
- 何もしない方がいいと思って、そのままにした(2012)
- 解決方法を知っていたので自分で解決した(2012)
- その他(相談等を含む)(2012)

## 【傾向】

◆ほとんどの学年で「解決方法を知っていたので自分で解決した」と回答した割合が減少し、「どうしていいのかわからなかったので、そのままにした」と回答した割合が増加している。

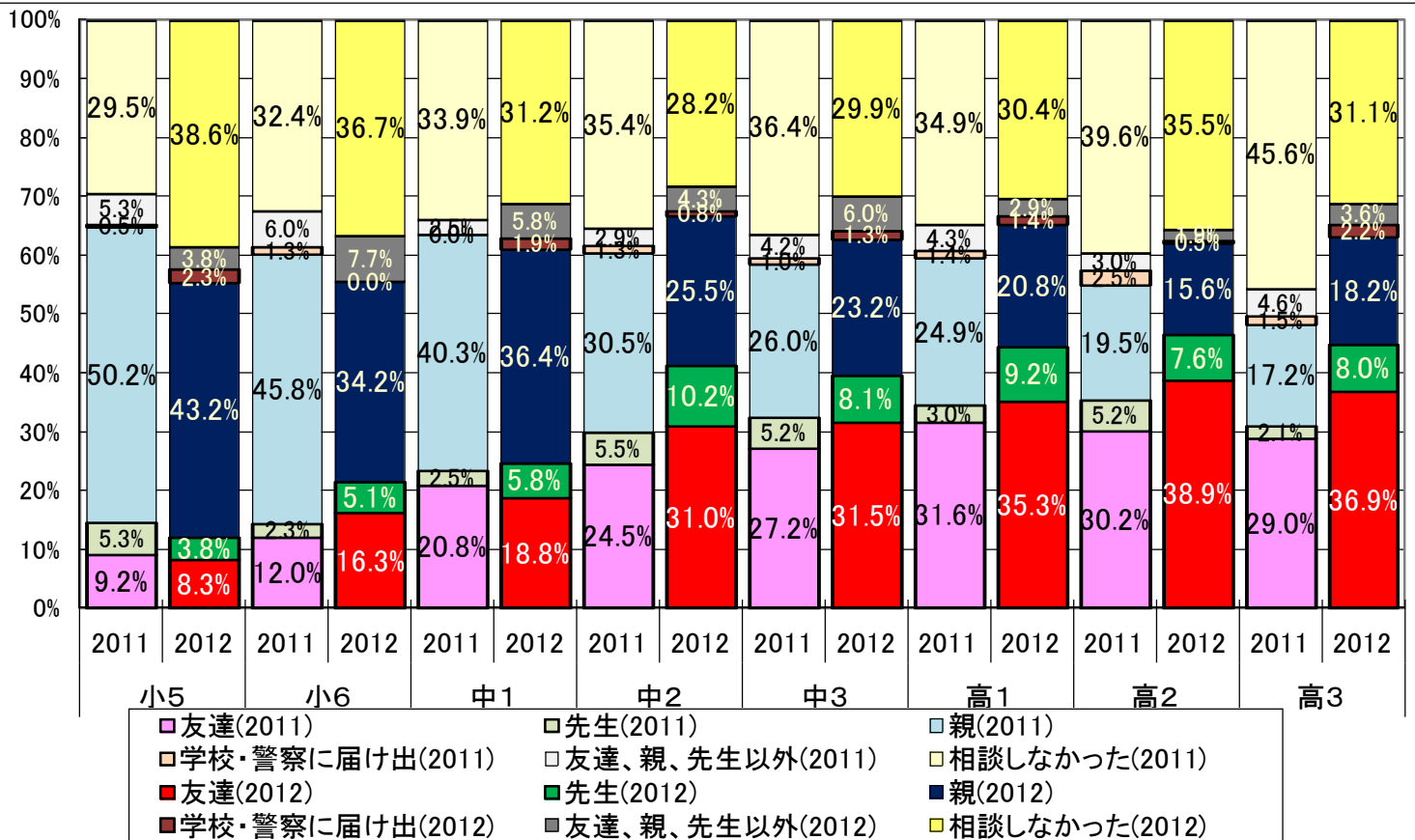
## 【指導のポイント】 被害発生時の対応方法の具体的な指導

○金銭、人間関係、詐欺、性犯罪、脅迫など、ネットでは様々なトラブルがあり、その状況は複雑化している。なぜ自分がそのようなトラブルに巻き込まれたのかわからない場合も少なくない。情報モラル指導を行い、正しい知識を養うことにより、危険な状況を回避したり、トラブルに遭った時に適切に対処したりすることができる能力を養うことが大切である。また、ネットトラブル発生時の相談窓口や相談機関を教えておくなど、具体的な指導も欠かせない。

**Q15**

被害を受けたとき、誰かに相談しましたか。(Q13で「ある」と答えた人のみ)

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
友達	2012	8.3%	16.3%	18.8%	31.0%	31.5%	35.3%	38.9%	36.9%	13.1%	28.6%	37.0%
	2011	9.2%	12.0%	20.8%	24.5%	27.2%	31.6%	30.2%	29.0%	10.9%	24.7%	30.2%
先生	2012	3.8%	5.1%	5.8%	10.2%	8.1%	9.2%	7.6%	8.0%	4.6%	8.3%	8.2%
	2011	5.3%	2.3%	2.5%	5.5%	5.2%	3.0%	5.2%	2.1%	3.6%	4.6%	3.4%
親	2012	43.2%	34.2%	36.4%	25.5%	23.2%	20.8%	15.6%	18.2%	37.8%	26.9%	18.2%
	2011	50.2%	45.8%	40.3%	30.5%	26.0%	24.9%	19.5%	17.2%	47.6%	31.0%	20.5%
学校・警察に届け出	2012	2.3%	0.0%	1.9%	0.8%	1.3%	1.4%	0.5%	2.2%	0.9%	1.3%	1.4%
	2011	0.5%	1.3%	0.0%	1.3%	1.0%	1.4%	2.5%	1.5%	1.0%	0.9%	1.8%
友達・親・先生以外	2012	3.8%	7.7%	5.8%	4.3%	6.0%	2.9%	1.9%	3.6%	6.1%	5.4%	2.8%
	2011	5.3%	6.0%	2.5%	2.9%	4.2%	4.3%	3.0%	4.6%	5.7%	3.3%	4.0%
相談しなかった	2012	38.6%	36.7%	31.2%	28.2%	29.9%	30.4%	35.5%	31.1%	37.5%	29.6%	32.3%
	2011	29.5%	32.4%	33.9%	35.4%	36.4%	34.9%	39.6%	45.6%	31.2%	35.5%	40.1%



**【傾向】**

◆中学生と高校生は「誰かに相談した」と回答した割合が増加しているが、小学生では反対に減少している。特に小学生では、「親に相談した」と回答した割合が減少している。また、中学生や高校生においては、これまであまり多くなかった「先生に相談した」と回答した割合が倍近く増加している。

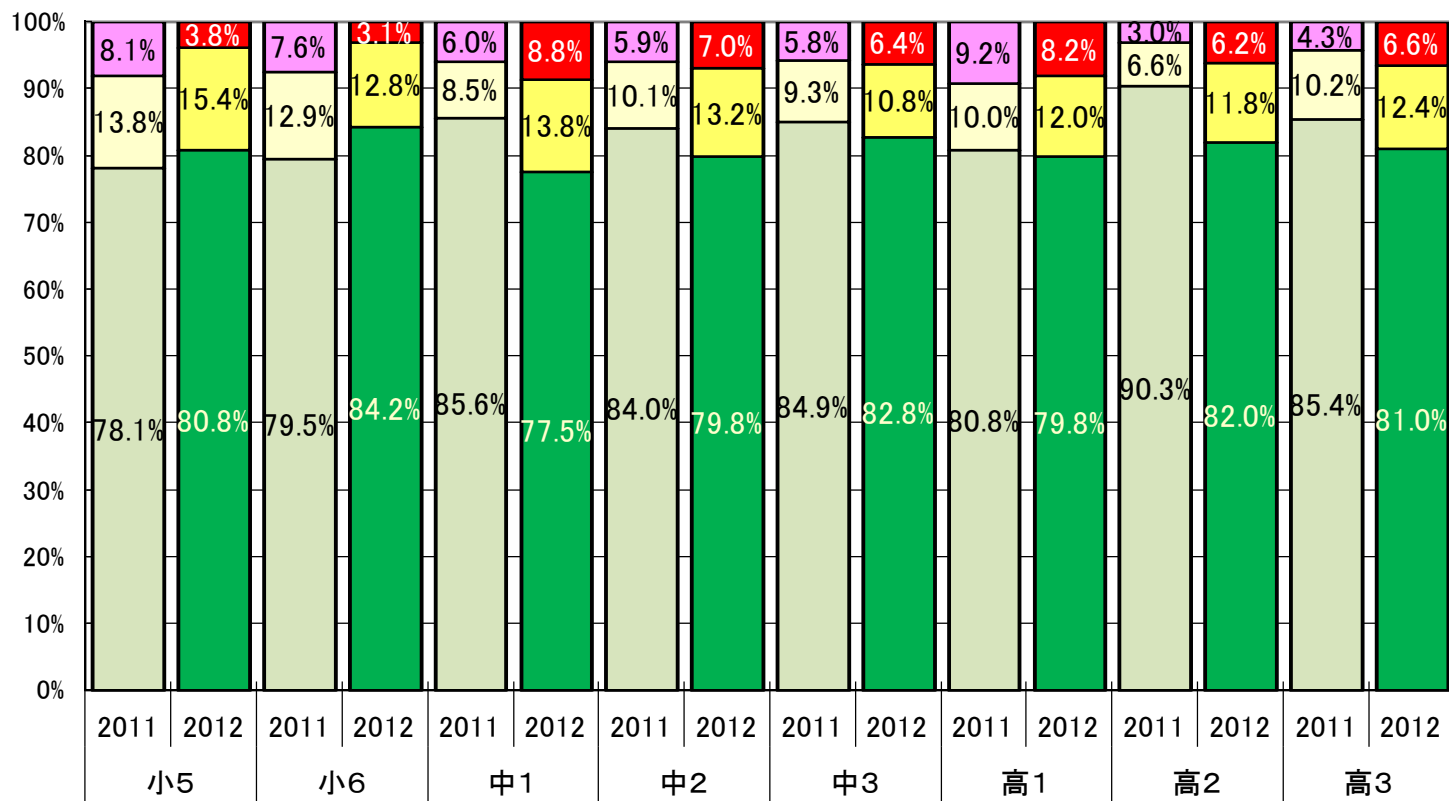
**【指導のポイント】** トラブルや被害発生時の相談（組織・方法）

○トラブルに遭った時には、被害が拡大・深刻化しないうちに、できるだけ早く教師や保護者に相談するように、普段から具体的に指導しておく必要がある。特に小学生が誰にも相談しない状況が増加している点について重く受け止め、確実に指導したい。また、保護者についても、トラブルに対応するための知識が乏しいことがあるので、専門的なアドバイスを受けることができる機関を保護者会等で周知しておくようにする。



**Q16** 解決できましたか。(Q13で「ある」と答えた人のみ)

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
解決できた	2012	80.8%	84.2%	77.5%	79.8%	82.8%	79.8%	82.0%	81.0%	82.8%	80.5%	80.9%
	2011	78.1%	79.5%	85.6%	84.0%	84.9%	80.8%	90.3%	85.4%	78.9%	84.8%	85.5%
解決できなかった	2012	15.4%	12.8%	13.8%	13.2%	10.8%	12.0%	11.8%	12.4%	13.8%	12.3%	12.1%
	2011	13.8%	12.9%	8.5%	10.1%	9.3%	10.0%	6.6%	10.2%	13.3%	9.3%	9.0%
解決できず、今も続いている	2012	3.8%	3.1%	8.8%	7.0%	6.4%	8.2%	6.2%	6.6%	3.4%	7.2%	7.0%
	2011	8.1%	7.6%	6.0%	5.9%	5.8%	9.2%	3.0%	4.3%	7.8%	5.9%	5.5%



- 解決できた(2011)
- 解決できなかった(2011)
- 解決できず今も続いている(2011)
- 解決できた(2012)
- 解決できなかった(2012)
- 解決できず今も続いている(2012)

**【傾向】**

◆中学生・高校生において「解決できなかった」や「解決できず今も続いている」と回答した割合が増加している。特に中1及び高1において、「解決できず今も続いている」と回答した割合が多い。

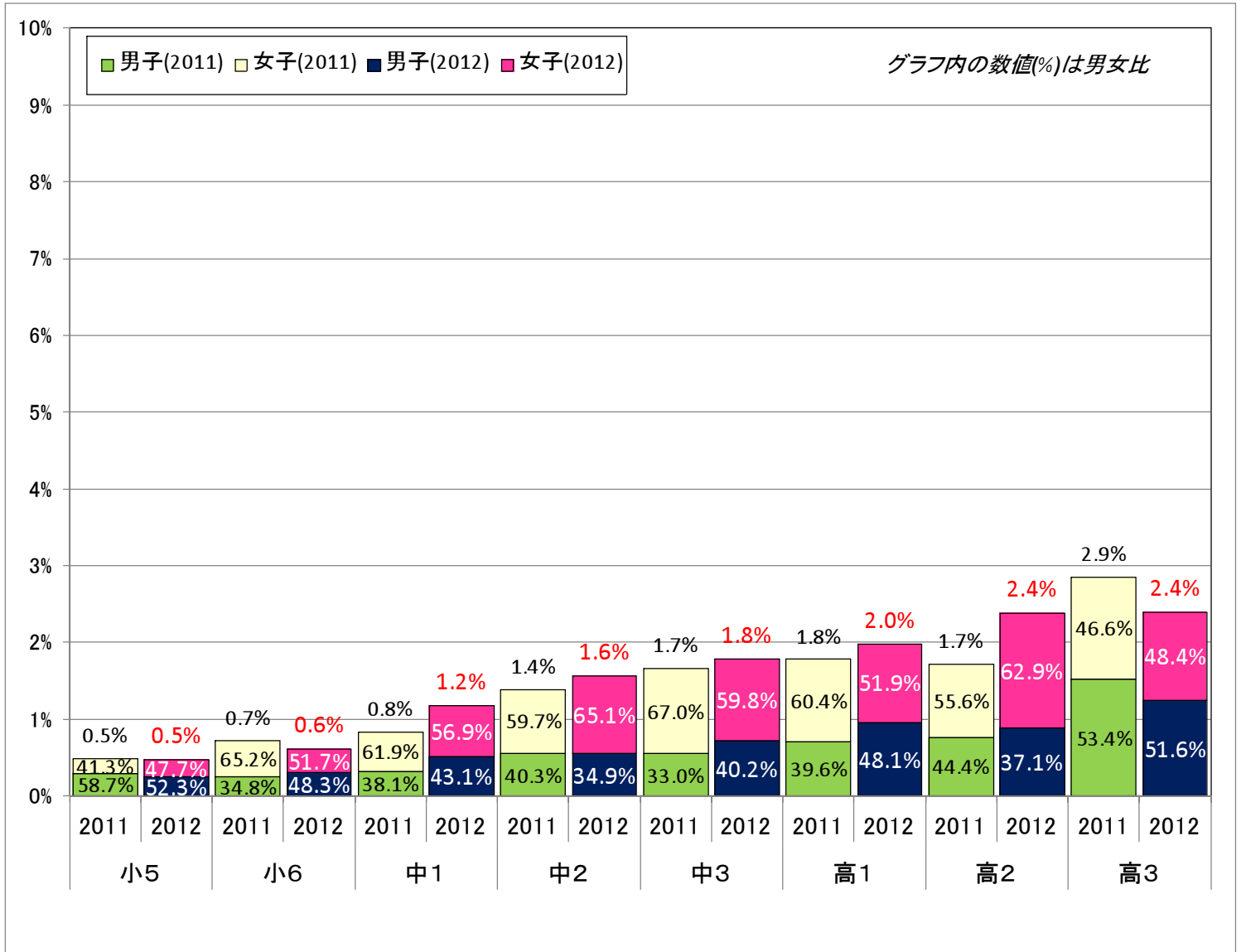
**【指導のポイント】** トラブル未解決のままの事案の徹底解決

○被害体験数そのものの絶対数は減少(→Q13)してきているが、被害を体験した児童生徒のうち「解決できなかった」と回答した割合が増加し、トラブルがより複雑で深刻になっていることが伺える。また「解決できずに今も続いている」と回答している児童生徒に対して、早急な実態把握と指導や支援が必要である。ネットでのトラブルは誰にも言えず一人で悩んでしまう傾向にあり、常日頃から大人にすぐに相談をするように働きかけておくことが重要である。

**Q17**

メールや掲示板の書き込みで、いじめを受けたことがありますか。

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小_平均	中_平均	高_平均
ある	2012	0.5%	0.6%	1.2%	1.6%	1.8%	2.0%	2.4%	2.4%	0.5%	1.5%	2.2%
	2011	0.5%	0.7%	0.8%	1.4%	1.7%	1.8%	1.7%	2.9%	0.6%	1.3%	2.1%



**【傾向】**

◆学年が進むにつれ「ある」と回答した割合は増加する。「ある」と回答した割合に関わらず、「いじめ根絶」という視点から、一例であっても許さないという対応が必要である。男子より女子がいじめに遭う割合がやや多い傾向にある。

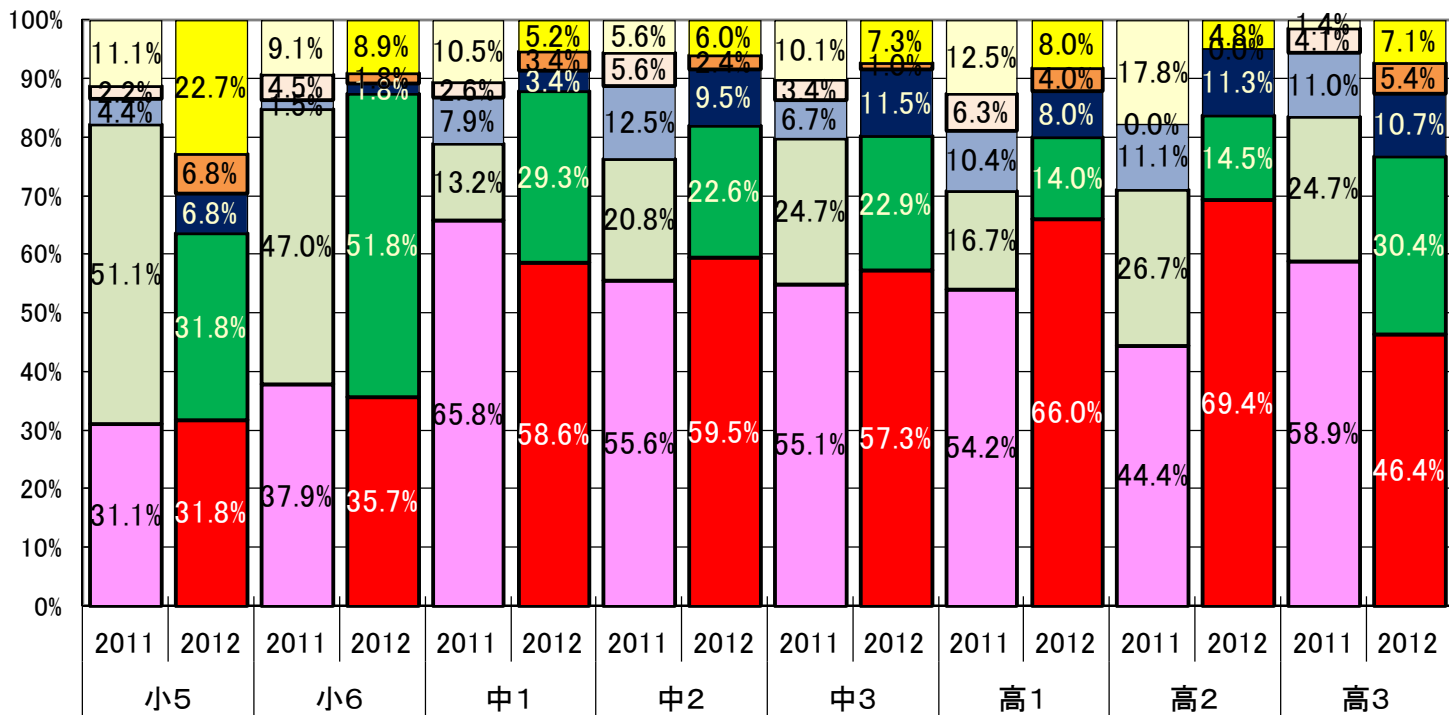
**【指導のポイント】** ネットという闇の中の「いじめ」

○ネット上のいじめは一般的ないじめと比較すると、「継続的で執拗ないじめ」「不特定多数からのいじめ」「いじめる側の実感を伴わないいじめ」となる傾向がある。また、教師や保護者の目が届かないところで行われ、発見が遅れることにより深刻化する場合も多い。教師、保護者の情報モラルに関する知識を高め、児童生徒の様子の変化について敏感に感じ取ることができるように研修・啓発及び観察を行う。また、ネットいじめの事例を通して、児童生徒自身がじっくりと「考える場」を位置付けた丁寧な指導が必要である。

# Q18

いじめを受けたと感じた理由は何ですか。(Q17で「ある」と答えた人のみ)

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
友達に悪口を書かれた	2012	31.8%	35.7%	58.6%	59.5%	57.3%	66.0%	69.4%	46.4%	34.0%	58.4%	60.7%
	2011	31.1%	37.9%	65.8%	55.6%	55.1%	54.2%	44.4%	58.9%	35.1%	57.3%	53.6%
知らない人に悪口を書かれた	2012	31.8%	51.8%	29.3%	22.6%	22.9%	14.0%	14.5%	30.4%	43.0%	24.4%	19.6%
	2011	51.1%	47.0%	13.2%	20.8%	24.7%	16.7%	26.7%	24.7%	48.6%	21.1%	22.9%
個人情報公開された	2012	6.8%	1.8%	3.4%	9.5%	11.5%	8.0%	11.3%	10.7%	4.0%	8.8%	10.1%
	2011	4.4%	1.5%	7.9%	12.5%	6.7%	10.4%	11.1%	11.0%	2.7%	9.0%	10.8%
おどされたり、お金を請求されたりした	2012	6.8%	1.8%	3.4%	2.4%	1.0%	4.0%	0.0%	5.4%	4.0%	2.1%	3.0%
	2011	2.2%	4.5%	2.6%	5.6%	3.4%	6.3%	0.0%	4.1%	3.6%	4.0%	3.6%
その他	2012	22.7%	8.9%	5.2%	6.0%	7.3%	8.0%	4.8%	7.1%	15.0%	6.3%	6.5%
	2011	11.1%	9.1%	10.5%	5.6%	10.1%	12.5%	17.8%	1.4%	9.9%	8.5%	9.0%



- 友だちに悪口を書かれた(2011)
- 知らない人に悪口を書かれた(2011)
- 個人情報公開された(2011)
- その他(2011)
- 友だちに悪口を書かれた(2012)
- 知らない人に悪口を書かれた(2012)
- 個人情報公開された(2012)
- その他(2012)
- おどされたり、お金を請求されたりした(2011)
- おどされたり、お金を請求されたりした(2012)

## 【傾向】

◆高1・高2においては、「友だちに悪口を書かれた」と回答した割合が顕著に増加している。中学生や高校生においては、「知らない人に悪口を書かれた」より「友だちに悪口を書かれた」と回答した割合の方が多い。

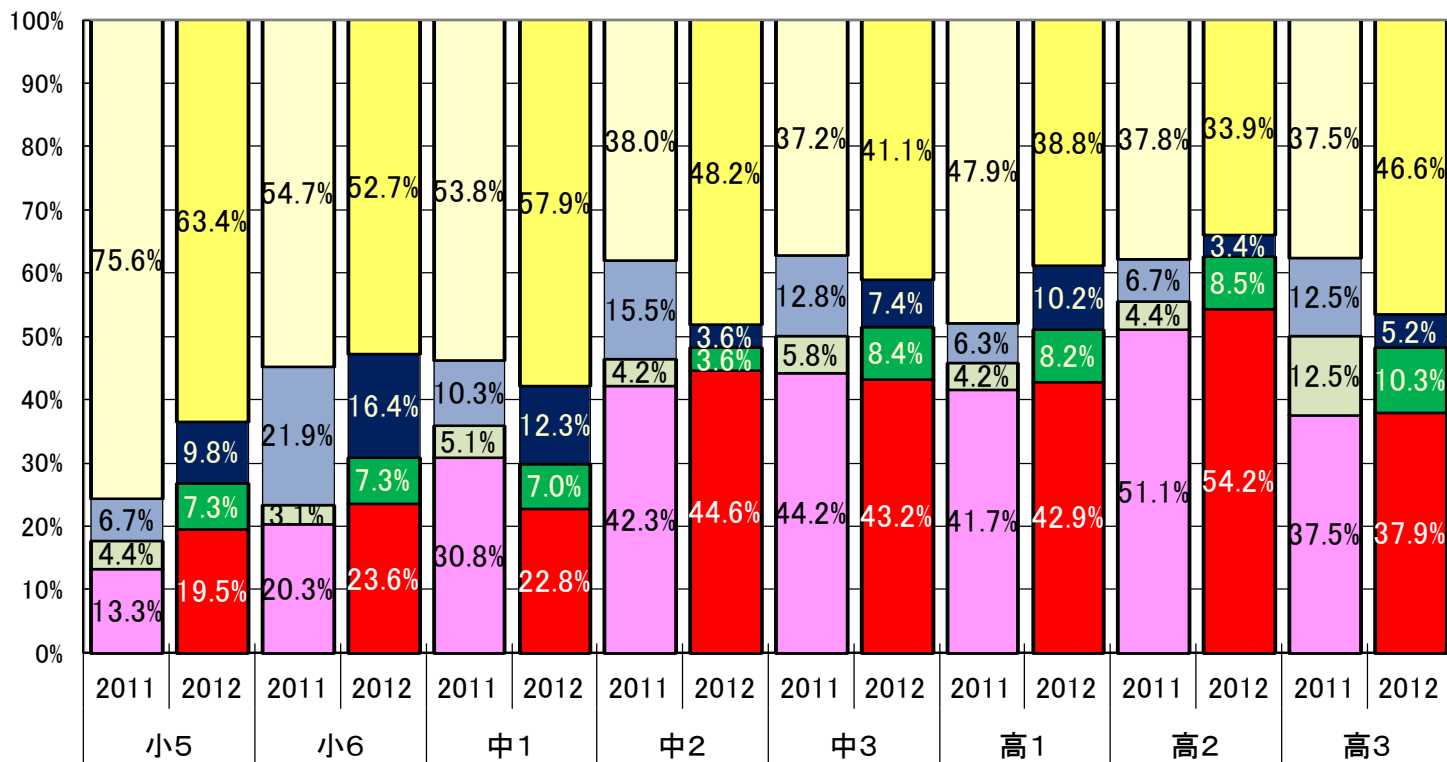
## 【指導のポイント】 親しい仲間同士における情報モラル

○いわゆる「学校裏サイト」等の掲示板への書き込みが減少し、SNSやゲームサイトなどで、限定された仲間同士でパスワードを設定し発言し合う場合が増えている。相手を傷つける些細な発言がもととなり、多勢から仲間外れにされるなど、同じ人が「加害者」になったり「被害者」になったりする。「ネットの向こうには見知らぬ人がいるので注意する」という指導に加えて、親しい仲間同士においても、情報モラルを守って利用することの大切さを指導する。

# Q19

何が原因でいじめを受けたと思いますか。(Q17で「ある」と答えた人のみ)

回答	学年	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	小平均	中平均	高平均
学校でのトラブル(もめごと)	2012	19.5%	23.6%	22.8%	44.6%	43.2%	42.9%	54.2%	37.9%	21.9%	38.7%	45.2%
	2011	13.3%	20.3%	30.8%	42.3%	44.2%	41.7%	51.1%	37.5%	17.4%	40.8%	42.4%
友だちのメールを無視したり、返事が遅	2012	7.3%	7.3%	7.0%	3.6%	8.4%	8.2%	8.5%	10.3%	7.3%	6.4%	9.0%
	2011	4.4%	3.1%	5.1%	4.2%	5.8%	4.2%	4.4%	12.5%	3.7%	5.1%	7.9%
掲示板やブログに書き込みをした	2012	9.8%	16.4%	12.3%	3.6%	7.4%	10.2%	3.4%	5.2%	13.5%	7.2%	6.0%
	2011	6.7%	21.9%	10.3%	15.5%	12.8%	6.3%	6.7%	12.5%	15.6%	13.3%	9.1%
理由はわからない	2012	63.4%	52.7%	57.9%	48.2%	41.1%	38.8%	33.9%	46.6%	57.3%	47.7%	39.8%
	2011	75.6%	54.7%	53.8%	38.0%	37.2%	47.9%	37.8%	37.5%	63.3%	40.8%	40.6%



- 学校でのトラブル(2011)
- 学校でのトラブル(2012)
- 掲示板やブログに書き込みをした(2011)
- 掲示板やブログに書き込みをした(2012)
- メールを無視したり返事が遅れた(2011)
- メールを無視したり返事が遅れた(2012)
- わからない(2011)
- わからない(2012)

## 【傾向】

◆小学生においては「理由がわからない」と回答した割合がもっとも多く、学年が進むにつれて、「学校でのトラブル」と回答した割合が増えていく。小学生においても「学校でのトラブルが原因」と回答した割合が増加してきている。

## 【指導のポイント】 携帯電話やスマートフォンの低年齢化と情報モラルの早期指導

○学校生活のトラブルとネット上でのトラブルが互いに連動して起こる事例が増加している。教室等の学校での生活の様子に加えて、ネット上での人間関係にも視野を広げて指導を行う必要が高まっている。また、小学生では情報モラルの知識やスキル(技能)の欠如から、不用意な発言をしてしまったり、見知らぬ人とトラブルに陥ったりする事例が増加している。早い時期からの情報モラル教育の積み上げが必要である。